

【解 答】

1. 好酸球性食道炎 (EoE) 2. プロトンポンプ阻害薬 (PPI) の投与

解説：

上部消化管内視鏡検査において縦走溝 (Figure 1A) や輪状多発収縮輪 (Figure 1B), 白斑 (Figure 1C) を認め、食道生検の病理組織所見では上皮内に多数の好酸球浸潤 (30/HPF 以上) を認めている (Figure 2)。自覚症状としてつかえ感を訴えていること、また二次性の好酸球増多が否定的であったことから、好酸球性食道炎 (eosinophilic esophagitis ; EoE) と診断した。超音波内視鏡検査や胸部 CT 検査では食道壁や筋層の肥厚は認めなかった。PPI の投与を開始したところ、速やかに自覚症状は消失した。しかしながら、フォローの内視鏡検査では治療前と比べて改善は認めるもののわずかに縦走溝が残存し (Figure 3)、生検でも 50/HPF 以上の好酸球浸潤が持続していた。治療開始から 4 年後にポノプラザン (P-CAB) に変更したところ、EoE に特徴的な内視鏡所見は認めなくなり (Figure 4)、生検でも好酸球浸潤は消失した。P-CAB 投与開始から 4 年半経過しているが自覚症状はなく、内視鏡所見の増悪も認めていない。



Figure 3. PPI 投与後の上部消化管内視鏡検査.

EoE は主に食物抗原に対する IgE 非依存型 (遅延型) アレルギー反応によって好酸球浸潤を主体とする慢性炎症が食道に限局して発生し、食道運動障害をきたす疾患である¹⁾。日本を含む東アジアにおける有病率は欧米と比べると低い傾向にあり 0.02~6.6% と報告されているが²⁾³⁾、近年本邦においても増加傾向である⁴⁾。男性に多く、発症のピークは 30 歳代から 40 歳代前半である²⁾。本症例のように、気管支喘息やアレルギー性鼻炎、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など、アレルギー疾患を基礎疾患に有する症例が多い⁵⁾。嚥下障害や嚥下時違和感、胸焼け、心窩部痛などの症状が主訴になり得る⁵⁾。

EoE の診断基準としては、食道機能障害に起因する症状を有することと食道粘膜の生検で上皮内に好酸球数 15 以上/HPF が存在することが必須項目とされており、内視鏡所見や PPI に対する反応不良、CT や EUS の画像所見、血液所見、男性が参考所見とされている⁴⁾。内視鏡所見としては、本症例でみられたような縦走溝や白斑、輪状の多発収縮輪などが特徴的である¹⁾³⁾⁵⁾。内視鏡的に異常が疑われる部位から最低 6 カ所生検を行うことが推奨されている⁶⁾。診断のポイントとしては、日本では欧米と比べて症状が軽微な症例も多いため詳細な問診を行うことと、EoE に特徴的な内視鏡所見に精通するとともに、少しでも疑わしい所見があれば積極的に生検を行うことが重要である。

治療としては PPI の投与が第一選択である。



Figure 4. P-CAB 投与後の上部消化管内視鏡検査.

PPIに対する反応が不良な症例に対しては、局所ステロイド療法や原因食物の除去を目的とした食事療法が考慮される⁴⁾。本症例ではPPIでは改善しなかった好酸球浸潤がP-CABにて消失しており、示唆に富む症例と考えられた。

参考文献：

- 1) 阿部靖彦, 佐々木悠, 上野義之: 好酸球性食道炎の診断と治療の進歩. *Gastroenterological Endoscopy* 61; 225-242: 2019
- 2) Dellon ES, Hirano I: Epidemiology and Natural History of Eosinophilic Esophagitis. *Gastroenterology* 154; 319-332.e3: 2018
- 3) Abe Y, Sasaki Y, Yagi M, et al: Diagnosis and treatment of eosinophilic esophagitis in clinical practice. *Clin J Gastroenterol* 10; 87-102: 2017
- 4) 幼児・成人好酸球性消化管疾患診療ガイドライン, 厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班編, 2020

- 5) Kinoshita Y, Ishimura N, Oshima N, et al: Systematic review: Eosinophilic esophagitis in Asian countries. *World J Gastroenterol* 21; 8433-8440: 2015
- 6) Lucendo AJ, Molina-Infante J, Arias Á, et al: Guidelines on eosinophilic esophagitis: evidence-based statements and recommendations for diagnosis and management in children and adults. *United European Gastroenterol* 5; 335-358: 2017

本論文内容に関連する著者の利益相反
：なし

出題：古川 和宏 (名古屋大学大学院
医学系研究科消化器内科学)
石川 恵里 (♪)
中村 正直 (♪)
藤城 光弘 (♪)